

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300550		
法人名	株式会社 悠隆		
事業所名	グループホーム「牧水苑」	ユニット名	4F
所在地	宮崎県延岡市北小路8-10		
自己評価作成日	平成26年 5月 30日	評価結果市町村受理日	平成26年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokansaku_in/45/index_nhp?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;liyosyoCd=4570300550-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokansaku_in/45/index_nhp?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;liyosyoCd=4570300550-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	4F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで話し合い理念を掲げている。スタッフの入れ替わりもあるが、職員会議やミーティング等を通して共有できる機会を作り、日々の支援の中で意識できるようにしている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店を利用したり、広報誌や夕刊から情報を収集し、行事・催し物に参加することで、地域と触れ合う機会を作るようにしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や民生委員の方へは、運営推進会議等で認知症を理解して頂くよう支援方法を伝えるようにしているが、地域の方へ情報を発信するまでには至っていない。知っていただくために地域の方も参加できる祭りの開催を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回開催し、利用者の状況やサービス内容を報告し、意見を頂くようにしている。又、会議録は全スタッフが目を通し、質の向上に取り組むようにしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問があれば相談をし、助言指導を受けている。運営推進会議にて定期的に報告もしている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修で身体拘束について学ぶ機会を持つようにしている。拘束のないケアに取り組んでいるところだが、今後、正しく理解することが課題と思われる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ事を、内部研修にて全スタッフが学べるようにしている。言葉かけにおいても、虐待となる場合があること理解し、注意を払いながら支援にあたっている。			

自己	外部	項目	自己評価	4F		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行っているが、全スタッフが制度を理解している状況とは言えない。以前、社会福祉協議会の安心サポート事業を利用されている方がいたので、活用できる体制は整っている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ホーム長が行っている。不安や疑問点があれば、その都度解決できるように体制を整えている。家族懇談会にて説明する機会もある。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会の実施や意見箱の設置にて意見を聞くようにしている。又、日常の会話、面会時の会話から意見をくみ取り、運営に反映するようにしている。				
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がスキルアップできる環境を作り、やりがいを持って仕事ができるよう取り組んでいる。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて職種別・階層別の研修を行い、隔月で内部研修を持ち、学ぶ機会を作るようにしている。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北ブロックの研修等へ参加し、他施設の方と交流を持つことが出来るようにしている。その中で得た情報や知識をホームで活かせるよう取り組んでいる。				

自己	外部	項目	自己評価	4F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安を軽減するため、入居前にホーム長と計画作成担当が自宅訪問を行い、希望や不安・ニーズ等を聞く機会を作っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とも事前面談を行い、信頼関係を築けるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聴き、情報を収集し意向を確認している。必要としているサービスが提供できるよう心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係ではなく、助け合える関係を築くようにしている。梅干しのつけ方・お花の生け方を教えていただいたり、家事を一緒に行ったりしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の不安が強い時は、電話での会話や面会・外出等の協力を家族にもお願いし、家族と共に支えることができるようにしている。行事にも参加して頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、住んでいた場所へのドライブを行っている。又、面会や電話の支援等、これまでの関係途切れないよう配慮している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の愛称、その日の様子等を考慮し、共有スペースや居室・廊下のソファを活用し、それぞれの居場所を作るようにしている。利用者同士で相談し合い、励まし合う様子がみられる。			

自己	外部	項目	自己評価	4F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供の必要があれば、行うようにしている。退去後も必要時は家族・本人の相談や支援をする体制がある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年間の目標にも掲げ、日常会話の中から思いや暮らしの希望をくみ取り、意向に沿った生活ができるようスタッフ一人ひとりが努力をしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報は、各自の個人ファイルにあり、全スタッフが把握できるようにしている。それ以外の情報も、経過記録や申し送りノートを使い共有できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子を個別に記録し、申し送りを行うことで、スタッフ全員が変化や気づきを共有できている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話す機会を持つようにしている。遠方の家族とは、電話で意向を確認している。必要があれば、介護職・看護職・主治医からも意見を求め、計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれのスタッフの気づきや工夫を、記録に残すことで情報を共有できている。その中で、どのような対応が効果的か実践や見直しを行う際、参考になっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにどう対応していくか、スタッフで出来ることを話し合いながら、支援方法を検討している。			



宮崎県延岡市 グループホーム「牧水苑」(4F)

自己	外部	項目	自己評価	4F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報・夕刊を活用し、地域で行われる催し物を把握し、参加するようにしている。街中に位置する為祭り等に参加しやすい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年利用している医院等へ通院できるよう、家族の方と協力し、支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡できる体制があり、安心して支援を行うことができる。又、本年度から看護師が常駐となり、より細やかな支援ができるようになった。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に細やかな情報提供を行い、環境が変わることでのストレスを少しでも軽減できるようにしている。又、入院中も定期的に面会に訪れ、医療機関や家族と話す機会を持つようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、終末期にむけた方針について話すようにしている。実際に終末期になったら、再度家族や医療機関と話し合い、連携を取りながら、本人・家族が決定できる体制を整えている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防本部や専門看護師に講師を依頼し、毎年実践的な研修を行い努力しているが、事例に当たることがほとんどない状況である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定や出火場所を変え、定期的に訓練を行っている。又、民生委員や地域の方にも訓練に参加して頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	4F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を開いたり申し送りで話題にし、その方に合わせた対応を心掛けているが、難聴の方や興奮している方には、試行錯誤しながら対応しているところである。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう、選択できる言葉かけや環境作りを心掛けている。利用者同士で主張がぶつかりトラブルになる時は、スタッフが間に入ることがある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけその方のペースで生活できるように、食事や入浴時間・回数等配慮している。又、体操をしたいと希望があれば取り入れたり、買い物希望には業務を見直したり努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしいおしゃれの支援を心掛けている。外出時には、お気に入りの洋服の用意や、お化粧の支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理法を相談したり、出来る事を手伝ってもらったり、一緒に準備するようにしている。時には出前を取ったり、外食をしたり、おいしく楽しい時間となるよう支援している。又、食べたい物があれば準備するようにしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあわせて、食事の形態や量等を工夫している。食慾のない方には好きなものを準備している。又、情報を記録しスタッフ間で共有している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方、声掛けが必要な方、義歯の洗浄の必要な方と状況に合わせた支援を行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	4F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、その方に合わせた声掛け等の支援を行っている。紙パンツを常時使用していた方が、トイレでの排泄が可能となり、日中は布パンツで過ごすようになった事例もある。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い食品を用意したり、運動や水分摂取を勧め、できるだけ自然排便できるように支援している。排泄チェック表にてスタッフが把握できるようにしており、必要時は主治医に報告し指示をもらっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を考慮し、それぞれの希望に沿った入浴を行い、楽しみになるよう支援している。ゆず湯等の季節を感じる事のできる工夫もしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣・状況を把握し、その方らしい生活が送れるように、起床時間や食事の時間をずらしたり、臨機応変な支援を心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが、薬について理解しているとは言えないが、処方説明書をファイルに保管し、いつでも確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話や生活の様子から、楽しみごとの把握に努めるようにしている。今までの生活歴から、家事の手伝いをお願いしたり、買い物・ドライブ等で外出の機会を作るようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分とは言えないが、できるだけ希望に沿った外出ができるようにしている。家族や地域のお店の方にも協力頂きながら、遠足や外食、鮎やなに出かけている。			



自己	外部	項目	自己評価	4F		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		自分で管理されている方や、ホームで管理し買い物時に使われる方等、個人の能力に合わせて支援している。又、預かり金の出納については、家族に確認して頂くようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		携帯電話を持ち、家族と連絡を取る方の支援をしている。他の方も希望があればホームの電話で連絡が取れるようにしている。手紙や年賀状を出す方の支援もしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		家庭に近い環境となるよう努めている。季節感を感じてもらえるように花を飾るようにしている。台所からの音や香りを感じ、生活感を味わえるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		食堂は皆で唄ったりテレビをみたり楽しく過ごす場所、廊下のソファは仲の良い方と話をする場所、居室は一人でゆっくり過ごす場所と、思い思いの過ごし方ができる環境作りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		本人の使い慣れたもの、好みのものを持ち込んで、各居室は個性的な部屋となっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		一人ひとりの能力を把握し、タンスにシールを張り整理しやすくしたり、紙パンツ類を取りやすい場所に収納したりしている。その方が、安全で自立した生活を送れる環境作りを、スタッフ間で話し合いながら行っている。			